

## 倶 多 楽

### ○ 火山活動評価：静穏な状況

火山活動に特段の変化はなく、静穏な状態です。

### ○ 概況

#### ・ 熱活動(図 3、図 4、図 5)

13 日および 16 日に実施した調査観測では、噴気や火口の状況に変化はありませんでした。

#### ・ 地震活動（図 6）

倶多楽付近を震源とする地震は少ない状態が続いています。



図 1 倶多楽 日和山の様子（2006 年 11 月 16 日 南東側観光道路から撮影）

---

資料中の作図にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000（地図画像）』を複製しています（承認番号 平 17 総複、第 650 号）。

○熱活動の状況

13 日及び 16 日に行った調査観測では、日和山、大湯沼、地獄谷等の熱活動の状況はこれまでと比べて大きな変化はありませんでした。

【日和山】

山頂部の噴気孔ではこれまでと同様に大きな噴気音を伴って白色の噴気を勢いよく噴出していました。赤外熱映像装置\*による観測では火口温度は約 80℃(昨年 2005 年 11 月、約 90℃) とこれまでと比較して大きな変化はありませんでした。また、高温域の拡大など温度分布にも変化はありませんでした。

\*赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

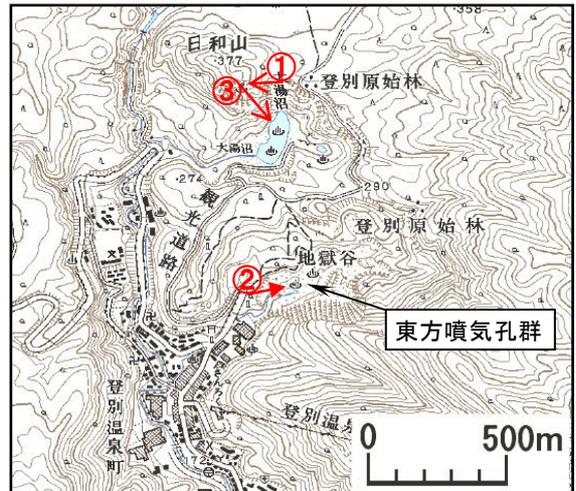


図 2 倶多楽 周辺図

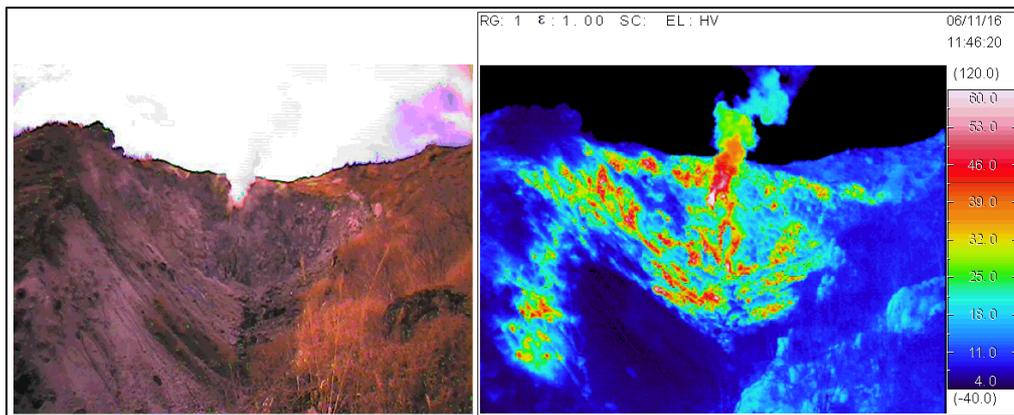


図 3 倶多楽 赤外熱映像装置による日和山の表面温度分布 (2006 年 11 月 16 日、周辺図①から撮影)

【地獄谷・大湯沼】

地獄谷では弱い噴気活動や温泉の湧出は続いており、その状況に変化は認められませんでした。地獄谷のほぼ中央に位置する東方噴気孔群でも活発な熱水の湧出が続いていました。大湯沼およびその周辺の湯沼や地熱域の状況に変化はなく、熱水の湧出や弱い噴気活動が続いていました。



図 4 倶多楽 地獄谷 (2006 年 11 月 16 日、周辺図②から撮影)



図 5 倶多楽 大湯沼 (2006 年 11 月 16 日、周辺図③から撮影)

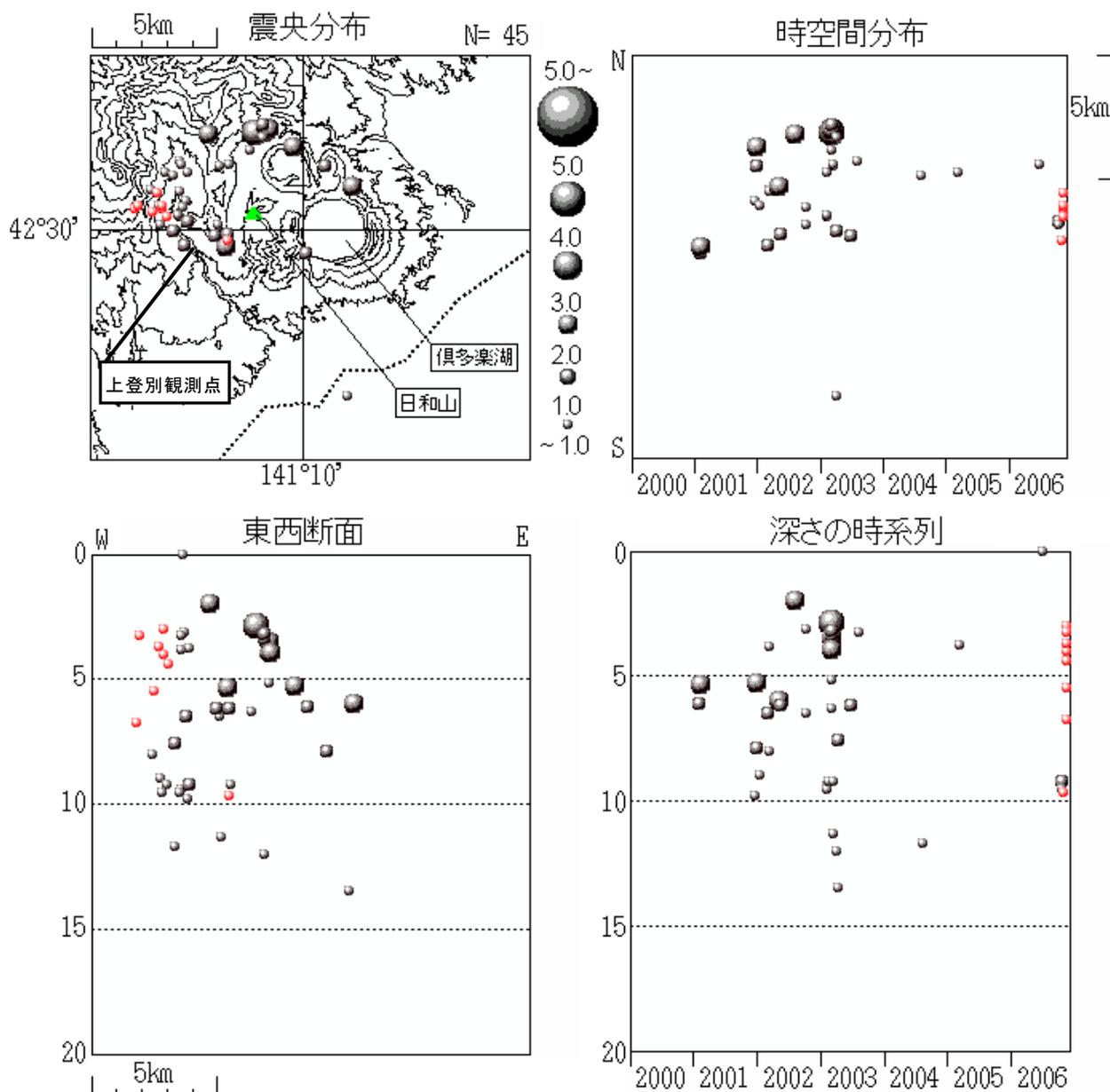


図6 倶多楽 広域ネットによる倶多楽周辺の地震活動

●は今期間（2006年11月）の震源。

●は2000年1月～2006年10月の震源。

マグニチュード（M）は地震の規模を表します。資料中のMは暫定値で、後日変更することがあります。

今期間、日和山の西側約5km付近を震源とする地震がややまとまって発生していますが、これらの地震は倶多楽の火山活動と直接関連するものではないと考えられます。

※上登別観測点は2006年10月1日以降機器障害のため欠測しています。このため地震回数表、月回数グラフは掲載していません。